

特集

キャリアを支援する
赤十字専門学校教員ラダー

看護教員ラダーの概要

小越佐知子

認定を受けた立場から

岩村直美・藤元由紀子・箕口ゆうこ・

柳めぐみ

評価をする立場から

満間信江・高岸壽美・小松智子

【特別記事】

教育実践と研究業績を結びつける Sotl

大山牧子

【連載】

優れた“わざ”をどう伝えるか——

技術の「背後にある意味」を教える・2 阿保順子

「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対応——臨地実習における

教育上の調整を考える・2 飯岡由紀子

学生なら誰でも知っている 看護コトバのダイバーシティ・2

木村映里

だから私はこう書いた 系看著者のフィロソフィー・6 奈良間美保

グループワークの“達人”への道・8 三浦真琴

東西南北！ 学生募集旅日誌・8 高塚由香里

編集後記

●弊誌の歴史が58年目に入ることから考えても、看護界が「教育」を重要視してきたことは明らかです。特に看護師養成を担ってきた専門学校では、大学で「教育力」が重視されFDが義務化される以前から教員養成講習会修了が求められ、教員は教育を学ぶことが必要であり当然と考えられてきました。ただ、残念ながらその内容は、教育界の進歩や教育環境の変化に追いついていないところが見受けられます。養成講習会の学びだけでは不十分になりつつあるとはいえ、制度改革には時間を要します。だからこそ、継続研修での教育力UPが必須となるのです。●特集の座談会で言われているように、いま必要なのは、先生方の自己研鑽の成果を「見える化」し評価することです。各学校や協議会、協会などで個々の教員の教育業績を称する体制の確立をめざしていただきたいと思います。

……大野

●看護教員「実力養成」講座、今年は「看護実践能力を高める実践的思考力の育成」をテーマに行いました。大阪会場、東京会場ともに満席で、看護教育を良くしよう、という熱気を感じました。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。●寒くなってきて、鍋の美味しい季節ですね。私は「出汁」フェチなので、どんな具材の組み合わせが良い出汁となるか、よく研究しています(最近、ほうれん草と豚肉だけを、にんにくと大量の日本酒で煮込む、常夜鍋が好きです)。今回の「実力養成」講座で頂戴しました多くのお声から、良い出汁の出した雑誌をつくっていききたいと思います。

……番匠

◎編集室ツイッター

http://twitter.com/KANGOKYOIKU

看護教育 第58巻 第1号 2017年1月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2017, Printed in Japan

(1部) 定価: 本体1,500円+税

2017年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版15,540円, 冊子+電子版/個人18,540円, 電子版/個人15,540円(いずれも+税, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 番匠・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/17/紙: ¥500/電子: ¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.57 No.12

2016年12月

特集

身体知をリベラルアーツに

いわゆるリベラルアーツ、教養教育の内容は、教育機関によってまちまちです。書店でも、哲学や歴史、基礎科学、統計学など、さまざまな切り口の「リベラルアーツ」「教養」の書籍が並んでおり、またその目的も、「人生を豊かにする」「ビジネスパーソンとして生きぬく」など、さまざまです。

しかし、本を読んで多くの知識を頭に入れることが、いわゆる「教養を身につけること」なのでしょう。

現在、一部教育機関ではその見直し、つまり、「頭で学ぶ」だけでなく、「身体で学ぶ」という「身体知」もまた、何かを学び専門性を発揮するうえで、重要なのではないかと、という新しい考えが起っています。この動きは、座学中心の授業から、アクティブラーニングへ、という動きとも連動しています。

一方、看護基礎教育はずっと以前から、実習や演習など、「身体で学ぶ」機会に恵まれてきましたが、実習時間の減少や、医療現場の変化などで、看護師が身体知を用いて患者と向き合っていない、という警鐘も昨今鳴らされています。

身体知をリベラルアーツにとらえ直そうとしている動きは、「身体知」の低下が叫ばれる、看護教育の内容にもつながるのでは、という思いで、本特集を企画しました。日々生きた身体に取り組み、みなさんの刺激となれば幸いです。

■看護教育危機の時代、なぜ今、「身体知」か 西山悦子

■看護職者らしさを支える知覚——ある看護学生の「身体知」が変わるとき 菊池麻由美

■身体知の構造——「身体で知る」ことの三段階 大橋容一郎

■「身体」の教養教育「改革」 鈴木守

■新たな身体モデルに向けて 山本敦久



Vol.57 No.11

2016年11月

特集

使える「患者役」になろう！

看護教育においては、常に「患者役」が必要となります。ペーパーベシエントや数値だけの事例を除けば、授業から演習、技術の習得から接遇対応のシミュレーションまで、患者役が存在しない場面はないと言ってもいいでしょう。ただ、高度な教育を受けたSP(Standardized Patient)が不可欠なOSCEはともかく、訓練された模擬患者を授業で活用できる機会は限られていますし、臨床看護師に患者役で協力してもらうのも、常にとはいきません。当然教員がその役割の大半をこなすことになります。

大抵の教員は、自らの臨床経験と学んだ知識で患者役を演じます。けれども、そこに目的達成のために「演じている」という意識はあるでしょうか？さらに言えば、学生に患者役をさせる際に、「演じる」ことを意識させているでしょうか？

今回の特集では、教員が患者役を演じることの重要性を再認識していただこうと、いかにすれば教育効果を高める患者役になれるかを考えていただくものです。模擬患者教育の実情や正式な養成を受けた模擬患者の演じ方を参考に、より使える患者役になっていただきたいと思います。

■教員や学生が「患者役」になる意義をあらためて考える 屋宜譜美子

■模擬患者教育の立場からみた「患者役」の演じ方 福井みどり

■模擬患者に聞く「患者役」のあり方 佐藤睦子／斎藤文江／長谷川克

■学生の段階的技術試験や新人看護職員合同研修における「OGナース」の模擬患者としての活用 若林亜由美／田口恵美子／高口みさき

■【対談】「演じる」視点からロールプレイを再考する 有馬葉子／蓮行



【2016年10月号(Vol.57 No.10)】

「病態関連図」を
おもしろく！

【2016年7月号(Vol.57 No.7)】

論理的に話そう！

【2016年9月号(Vol.57 No.9)】

さあ、臨床判断モデル

【2016年6月号(Vol.57 No.6)】

看護過程再再考

【2016年8月号(Vol.57 No.8)】

論理的に書こう！

【2016年5月号(Vol.57 No.5)】

「気持ちのいい」ケアを
教えよう！

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2014年11月号(Vol. 55, No.11)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.toabook.com/>)
- 2014年12月号(Vol. 55, No.12)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお願いします。